

令和6年度

事業報告書

社会福祉事業	阿木拠点区分	法人本部 特別養護老人ホーム ショートステイ デイサービスセンター ヘルパーセンター グループホーム
	大井拠点区分	デイサービスセンター ショートステイ
公益事業	阿木拠点区分	地域包括支援センター 居宅介護支援事業所

社会福祉法人 敬愛会

令和6年度 社会福祉法人 敬愛会 事業報告書

事業概況

法人の基本理念「敬愛の心」「地域に愛され、地域とともに」を全職員が再確認し、各種サービスのさらなる充実と資質向上を目指し、地域貢献に努めました。

令和6年度は、社会情勢や物価高騰により一時見合わせていた増床計画をユニット型から従来型15床へ計画変更し、岐阜県・中津川市と再協議した結果、今年度の単年度事業として工事着工に至った。

その為年間を通して職員の行動制限・各種行事企画の制約・面会制限のご協力等、入居者様・利用者様・職員の安全を考慮する一年となりました。

人材育成につきましては、昨年より引き続き外国人材の技術向上を中心に研修計画を立て全てのスタッフの技術や知識の向上を図るべく、法人全体として取り組みを行なってきました。

法人の基本課題

- 1、利用者本位の高い水準の福祉・介護サービス実現のため、安全・安心のためのサービス提供の拠点としての役割に努めました。
- 2、適正な法人運営のために役員や職員の「法令遵守」意識の向上を図り、質の高い業務の遂行、並びに明瞭な事務処理に努めました。
- 3、利用者に寄り添える福祉への情熱を持った心優しい人材が、専門職（介護看護・栄養・機能訓練など）としてのキャリアを活かすことができる人材育成の推進に取り組みました。
- 4、新たな事業の展開を念頭に、社会福祉をめぐる動向や法人の運営状況を見極めながら、既設事業の拡充や新規事業への取組みに向けた検討を、積極的に進めました。
- 5、地域の信頼と協力を得るために、「見える化」にとどまらない「見せる化」を推進し、積極的に様々な形で地域貢献や情報発信に取り組み、地域社会との連携をさらに強化することに努めました。

役員構成

評議員	7	藤原由久	田並正三	殿島和人	後藤榮子	西尾俊彦	可知幸作	三輪宗弘
理事	6	花田美晴	西村峰一	鈴木弘之	渡邊忠義	今井正子	米住 潤	
監事	2	水野泰正	三宅秀雄					
備考	評議員（田並正三）逝去に伴い、令和7年3月より後藤初秋氏が就任							

委員構成

委員	構成	現員	委員（外部）	委員（監事）	委員（内部）		
評議員選任解任委員	5	5	後藤初秋	水野泰正	三宅秀雄	水野基己	後藤克己
GH運営推進委員	鈴木裕子		西尾丸美	三輪宗弘	ご家族	ご家族	
行政委員	土井康徳		法人内委員	勝 千鶴	栗田朋子	米住 潤	水野基己

会議開催状況（理事会）

定数6	監事2	出席	議題
5月25日	理事6	監事2	令和5年度事業報告、決算報告、給与規定改正、増床計画など
10月5日	理事6	監事2	諸規定の変更、土地建物購入、借入金、監査結果報告
12月7日	理事6	監事2	補正予算、冬季賞与、再雇用規則変更、工事現場視察
3月22日	理事6	監事2	理事長の選任、事業計画、予算、選任解任委員の選任など

（評議員会）

定数7	出席	議題
6月22日	評議員5	令和5年度決算報告の承認、増床計画、担保設定の承認
12月7日	評議員4	特養増床工事現場視察、監査結果報告、

評議員選任解任委員会	出席	議題
3月29日	5	外部委員の選任、欠員による新評議員の選任

監査状況

種別	実施日	監査人	監査事項・指導事項
法人内監査	5月22日	監事	令和5年度決算及び事業報告に係る監事監査
法人監査	9月27日	岐阜県	増床計画に係る施設整備事前監査
工事関係監査	9月12日	岐阜県	増床工事に関する経理・書類等に係る監査
	3月4日	岐阜県	増床工事に関する経理・書類等に係る監査
	3月10日	岐阜県	増床工事に関する完成検査・監査

実施事業

地区	事業名	種別	定員	備考
阿木	社会福祉法人 敬愛会	-	-	本部
	特別養護老人ホーム シクラメン	指定介護老人福祉施設	70	
	同 ショートステイ	指定短期入所生活介護	10	
	デイサービスセンター シクラメン	指定通所介護	40	
	シクラメン ヘルパーセンター	指定訪問介護	-	
	居宅管理事業所 シクラメン	指定居宅介護支援	-	公益
	シクラメン 地域包括支援センター	中津川市委託事業	-	公益
	グループホーム しくらめん	地域密着認知症対応型共同生活介護	9	
	同 デイサービス	同 認知症対応型通所介護	3	
恵那	デイサービスセンター 大井シクラメン	指定通所介護	25	
	ショートステイ 大井シクラメン	恵那市基準該当短期入所生活介護	13	
	デイサービスセンター 飯地シクラメン	サテライト型通所介護	10	

外国人雇用状況

地区	事業所	出身国	在留資格	男(内訳)	女	監理団体・支援機関
阿木	特別養護老人ホームシクラメン	ベトナム	技能実習		2	ダイバーシティー
		ベトナム	技能実習		5	亜細亜架橋協同組合
		ベトナム	特定技能		2	ダイバーシティー
		インドネシア	特定技能	4		パーソルキャリア
	GHしくらめん	インドネシア	特定技能	1		パーソルキャリア
大井	大井シクラメン	ミャンマー	特定技能		2	ホットスタッフ
令和7年4月30日現在			計	5	11	16 外国人材合計

特記事項

- ※7月1～4日：外国人現地面接（ベトナム・ハノイ）・技能実習生3名内定。4月7日着任・9日就業
- ※8月25日：阿木シクラメン杪夏祭を家族参加で開催。午後・夜間の2部構成
- ※10月5日：大井シクラメンにて秋祭り（夏祭りの代替）をコロナ前同様の通常規模にて開催。
- ※2月21日：田並正三評議員逝去に伴い、3月29日 後藤初秋が評議員に就任。
3月29日：評議員選任解任委員（外部委員）の変更 後藤初秋⇒水野克司
3月17日：花田美晴理事長逝去に伴い、3月22日 理事渡邊忠義が理事長に就任。
- ※増床工事（4月21日～2月26日）、職員用に中の島公園駐車場を借用、勝野所有地を購入し駐車場利用
竣工式3月15日・内覧会15～17日、3月21日入居開始、5月14日満床となる（85床）
- ※3月16日：グループホーム開所10周年記念行事を実施

社会福祉法人 敬愛会 事業実績一覧

令和6年度 R6年4月~R7年3月

特別養護老人ホーム シクラメン	定員	利用率	内訳	支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均 介護度	延人数	前年度比	
当年度	70	97.8%	構成比	0.0%	0.0%	0.0%	14.9%	48.1%	36.9%	4.2	24982	99%	
前年度	70	98.4%	構成比	0.0%	0.0%	0.0%	12.7%	45.6%	41.7%	4.3	25208	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延人数	2073	2170	2087	2148	2094	2053	2115	2080	2119	2130	1817	2096	24982
稼働率	99%	100%	99%	99%	96%	98%	97%	99%	98%	98%	93%	97%	97.8%
入所者数	2	0	0	2	2	0	1	2	2	1	7	10	29
退所者数	1	0	2	2	1	1	0	3	1	5	4	2	22

ショートステイ シクラメン	定員	平均/日	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年度比	
当年度	10	7.0	0	0	39	214	639	725	652	300	2569	89%	
前年度	10	7.9	0	0	47	187	368	930	781	583	2896	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延人数	245	235	225	213	228	216	217	203	198	181	194	214	2569
稼働率	82%	76%	75%	69%	74%	72%	70%	68%	64%	58%	69%	69%	70.4%

グループホーム しくらめん	定員	利用率	延人数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均 介護度	前年度比	
当年度	9	99.0%	3252	0	0	508	510	1495	739	0	2.8	99%	
前年度	9	99.7%	3283	0	0	580	473	1523	666	41	2.7	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延人数	270	279	270	279	279	270	274	251	279	279	244	278	3252
稼働率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	93%	100%	100%	97%	100%	99.0%
入所者数	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	1	7
退所者数	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	1	7

グループホーム しくらめんデイ	定員	平均/日	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年度比	
当年度	3	1.3	0	0	0	12	14	86	9	0	121	46%	
前年度	3	1.7	0	0	0	108	43	114	0	0	265	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	13	14	12	14	7	12	13	0	0	2	4	4	95
延人数	23	16	13	16	9	17	15	0	0	4	4	4	121
稼働率	59%	38%	36%	38%	43%	47%	38%	0%	0%	67%	33%	33%	42.5%

デイサービスセンター シクラメン	定員	平均/日	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年度比	
当年度	40	25.7	0	73	460	2797	1992	1711	585	311	7929	105%	
前年度	40	24.5	0	74	598	2841	1717	1605	409	316	7560	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	24	26	309
延人数	627	701	678	707	658	690	733	724	608	607	560	636	7929
稼働率	60%	65%	68%	65%	61%	69%	68%	70%	61%	63%	58%	61%	64.2%

シクラメン ヘルパーセンター	平均 介護度	自立	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年度比	
当年度	2.5	0	0	168	633	1256	1333	2172	1002	653	7217	110%	
前年度	2.5	0	0	196	605	1663	908	1255	1018	913	6558	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
延回数	618	693	677	670	673	640	612	566	512	505	509	542	7217
実人数	47	49	48	47	47	47	44	45	43	47	49	46	559

居宅介護支援事業所 シクラメン	平均 支援員数	加算	プラン/人	プラン 作成率	新規件数	終了件数	事業プラン	支援プラン	介護プラン	プラン計	プラン計 前年比	プラン/人 前年比	
当年度	4.5	Ⅱ	25.9	66%	54	45	23	215	1161	1399	94%	94%	
前年度	4.5	Ⅱ	27.5	71%	49	46	18	204	1265	1487	100%	100%	
当年度内訳	集計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業対象	23	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1
要支援受託	215	13	17	16	14	14	16	16	19	20	23	23	24
要介護1	455	36	26	39	45	41	44	42	39	38	35	35	35
要介護2	349	24	25	32	30	30	29	29	29	30	30	30	31
要介護3	199	15	14	14	18	18	17	19	17	18	19	16	14
要介護4	108	7	9	9	10	11	10	8	9	7	8	9	11
要介護5	50	5	4	3	3	4	5	5	5	4	4	3	5

シクラメン 包括支援センター	相談人数	相談件数	(訪問)	(来所)	(電話)	実態把握	ケア会議	予防教室	教室延人数	事業プラン	前年度比
当年度	104	453	164	24	256	68	4	43	707	8	103%
前年度	110	439	171	30	237	71	6	39	647	3	100%

デイサービスセンター 大井シクラメン	定員	平均/日	計画/日	達成率	実稼働率	(新規利用)	(中止廃止)	事業対象	要支援	要介護	合計	前年度比	
当年度	25	17.0	18	94.4%	68.0%	12	1	103	130	5052	5285	104%	
前年度	25	14.9	17.5	85.1%	59.6%	28	27	63	186	4839	5088	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	27	24	26	313
延人数	476	502	454	457	456	453	482	443	438	388	375	396	5320
稼働率	73%	74%	73%	68%	68%	72%	71%	68%	67%	57%	63%	61%	68.0%
飯地シクラメン													
飯地(再喝)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	9	9	8	9	9	9	9	4	4	4	3	4	81
延利用人数	24	29	31	33	27	28	27	12	9	8	4	7	239
計画(5名/日)	53%	64%	78%	73%	60%	62%	60%	60%	45%	40%	27%	35%	59%

ショートステイ 大井シクラメン	定員	平均/日	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年度比	
当年度	13	10.8	0	0	33	633	982	1269	471	526	3914	96%	
前年度	13	11.1	0	0	52	579	1019	1333	449	648	4080	100%	
当年度内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延人数	358	361	351	349	350	333	342	302	334	307	284	288	3959
稼働率	92%	90%	90%	87%	87%	85%	85%	77%	83%	76%	78%	71%	83.4%

令和6年度 事業報告書

事業部門 基本方針		特別養護老人ホーム シクラメン ショートステイ	
①	事業概況 総括	個々の職員が利用者の望む暮らしの実現のため、介護支援計画に基づき利用者の生活の質が向上するように取り組んできた。業務の効率化と同時に職員のサービスの質の向上にも継続して取り組んで行く。介護職では外国人人材の割合が高くなっているため外国人人材のキャリアアップも検討したい。 年度末に15床増床し95床となった。計画的な新規入所の受け入れと業務の改善・統一を行い安心・安全な環境を整える。	
②	サービス向上 取組み	利用者、利用者家族に満足度調査の実施 ()内R5年度 家族 52家族 全ての項目「満足している」 平均 68.1% (67.7%) 利用者 42名 // 平均 32.4% (42.1%) (利用者満足度 今回よりⅢaの利用者も対象とした為「わからない」に増加がみられた)	
	行事・企画	4月 4日 中の島公園 花見 10月 4日 シクラメン開所記念(23周年) 6月 4、7日 ほう葉寿司 12月 16、23日 クリスマス、忘年会 8月 25日 杪夏際(前納涼祭) 2月 3、7、10日 節分・鍋会食 9月 16日 施設敬老会	
項目		取組み結果	
③	職員の 資質向上	1 研修・勉強会の状況	6月・12月 感染症予防(研修・訓練) 7月・11月 身体拘束、事故防止 8月 権利擁護 11月 看取り研修 上記全職員対象に研修会実施。(資料配布を含む)
		2 人材育成・資格取得	介護福祉士(特定技能) 1名合格 認知症介護リーダー研修 1名履修
④	業務の円滑化 環境整備	1 会議・各種委員会	委員会活動 (1回/月 実施) 食事委員会 事故防止委員会 教育・研修委員会 記録委員会 医療ケア連携委員会 看護師会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会 医療安全委員会 定例会議 (1回/月 実施) リーダー会 ユニットカンファレンス ユニット会
		2 業務改善の取組み	記録の電子化を推進し、提出書類や申し送り業務の効率化。 増床に伴う業務内容の見直し。(ショート受け入れ時業務など)
⑤	運営管理 危機管理	1 保健衛生管理	定期的な感染対策委員会を開催し新型コロナウイルス感染症の対応を見直した。感染症発生時の標準感染予防策と感染症発生時の備えを職員に指導し、ユニットの物品配置を見直した。インフルエンザワクチン接種、新型コロナワクチン接種を行った。
		2 防災管理など	BCP(事業継続計画)の策定と見直し。内容に基づいた訓練を実施する。(感染症対策・避難訓練の実施)
		3 リスクマネジメント	事故防止委員会に毎月第三者委員が出席し、ヒヤリ・はっと、事故報告の分析と対策の検討を行う。(事故対策後1カ月間評価)
		4 苦情対応・解決	苦情件数 入所利用者 0件 ショート利用者 1件 水薬の取り扱いについて
⑥	福祉活動 各種連携	1 地域への貢献・連携	9/15 阿木敬老会参加(11名) 10/22,23 阿木中学校1年生3名福祉体験受け入れ。
		2 家族・関係者の連携	感染症対策のため、玄関ホールやユニット指定の場所で面会。 (面会人数2名、面会時間10分)
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	【外国人人材の指導】 ベトナム人実習生4期生2名が夜勤業務開始。ベトナム人実習生5期生3名受け入れ準備。 (R6年度末、ベトナム人7名・インドネシア人4名) 【増床の準備、新規入所者受け入れ開始】 R7年3月15床の増床工事完了。業務内容と人員配置を見直し新規入所者受け入れ開始。 【職員の人材育成】 事業内職業能力開発計画の人材育成の基本方針「職員が定着し育つ教育」を実践するため、目標成果シートを活用した人材育成に取り組む。	

令和6年度 事業報告書

事業部門		デイサービスセンター	
基本方針			
①	事業概況 総括	ICT 機器を活用し、連絡帳と業務日誌の業務の効率化を図った。ペーパーレス化を図り記録業務の対応時間の削減をつなげられた。またタブレットによる記録をすすめることで情報共有の充実を図ることができるようになってきている。介護・看護職員の安定した配置が確保できない状況もある中、十分な個別ケアの提供には至らなかった恐れはあったが、生活総合機能改善機器の導入などにより余暇の充実を図る取り組みができた。十分な学習機会を設けられなかったが、認知症ケアの一環で「見える事例検討会」を開催することができ次年度の認知症ケアを推進する機会につなげることができた。引き続き人材育成を図ると共に利用者のアセスメントと共に個別ケア充実を取り組むよう努力したい。また感染症対策も継続することで利用者が安心してご利用いただけるように努めることができた。リスクマネジメントに関して、ヒヤリハット報告の奨励を図り気づきの機会を増やす事で重大な事故の防止に努めることもできた。不適切ケアについて、虐待防止につながらないよう毎月連絡会にて声かけを行っているが、満足度調査にて利用者・家族よりご意見をいただくこともあり引き続き不適切ケアについて全職員が心がけ、利用者が安心して利用できるように努める必要がある。	
②	サービス向上 取り組み 行事・企画	毎月、翌月に飾る季節に合わせた工作を提供し活動していただくことができた。昨年度に引き続き「月間デイ2月号」に取り組みが掲載された。個々の趣味に応じた余暇活動を提供することができた。生活総合機能改善機器を導入し運動・認知・口腔・歌唱項目を取り入れた余暇活動の充実を図った。 広報誌：年4回発行（利用中の活動の様子の見える化を図る） 余暇工作：4月「兜」5月「紫陽花」6月「ひまわり」7月「花火」9月「ぶどう」 10月「紅葉」11月「クリスマス」12月「鏡餅」1月「吊るし飾り」2月「ひな祭り」3月「桜」 行事：10月「五平餅会」12月「お楽しみ会」3月「ひな祭り行事」 3月4日「ごぼう先生オンラインレク」	
項目		取組み結果	
③	職員の 資質向上	1 研修・勉強会の状況	『不適切ケアと虐待』（リスクマネジメント会議より） お茶の水ケアサービス学院オンライン研修 各連絡会にて視聴 「見える事例検討会」開催（認知症ケア推進会議より） 県デイ協東濃支部研修会（10/3、1/25）
		2 人材育成・資格取得	「業務目標・評価シート」を活用し目標をもって日々取り組む
④	業務の円滑化 環境整備	1 会議・各種委員会	デイ運営会議、専門職連絡会：情報共有・業務改善協議 リスクマネジメント会議：事故・虐待防止等について協議 モニタリング会議：利用者の計画見直し協議 認知症ケア推進会議：想い出話の会、認知症ケアについて協議 広報委員会 食事委員会(法人) 看護師会(法人) BCP(法人)
		2 業務改善の取組み	ICTによる記録を推進。記録の充実とペーパーレス化を図る
⑤	運営管理 危機管理	1 保健衛生管理	利用者手指消毒(来所時・食前・おやつ前) テーブル・手すり等の消毒 ・乗車前検温・マスク着用・パーテーション設置
		2 防災管理など	BCP 会議(1回/月)法人・事業所 研修企画・計画見直し 非常災害対策訓練 4/29 災害時対応(机上)11/5 緊急通報訓練
		3 リスクマネジメント	介護事故:23件(転倒8、外傷9、熱傷1、異食1、その他4) ヒヤリハット:191件 →リスクマネジメント会議にて協議 車両事故:5件 →安全運転講習(3/17)
		4 苦情対応・解決	苦情:0件 満足度調査において、接遇に関するご意見をいただく。不適切ケア防止に向けて職員へ再周知を図る。 朝礼時の禁句ワード確認継続。禁句ワードの見直しを実施する。
⑥	福祉活動 各種連携	1 地域への貢献・連携	介護予防事業「あんきなくらぶ」への参画 地域ケア個別会議への参加
		2 家族・関係者の連携	生活相談員を中心とした相談と情報共有(随時) 満足度調査の実施
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	【成果】昨年度に引き続き ICT 機器を活用し情報共有の効率化とペーパーレス化を図ることができた(連絡帳・業務日誌の電子化)。 【課題・方向性】タブレット活用し記録の質を高め個別ケアに向けた利用者個々の評価をすすめる。また事例検討を通じた個別ケアの充実を図りたい。安定した職員配置と確保しつつ不適切ケア防止を含めた人材育成を図り質の高い個別ケアを目指す。	

令和6年度 事業報告書

事業部門		ヘルパーセンター	
基本方針			
①	事業概況 総括	<p>利用者様の在宅生活を維持するためには、利用者様の個々の状況に踏まえて、自立、重度化防止が必要。その為には、利用者様の持っている力を生かし、利用者様が望む生活を送れる様支援する事が目的となるので、状態に合わせ、排泄交換・入浴・調理・掃除、そして身体O（20分未満の身体介護サービス）も導入し、利用者様の状況に応じて支援を行う事が出来た。</p> <p>看取りの依頼も多く、ケアマネ、訪問看護と連携を取りながら、家族に負担の無いよう、傾聴・声かけにも心掛けた。</p> <p>毎月、研修も行い、ヘルパー全員の質を高め、利用者様の状態観察を行い、変化に気づき、早期対応にもつなげられたと思う。</p> <p>感染症対策は、引き続き検温や対策を行いながら訪問を行っているが、施設の訪問以外、フェイスシールドの対応は行わない事とした。</p> <p>訪問地域…阿木・恵那・岩村・山岡・武並・飯地・中野方・笠置・坂本</p>	
②	サービス向上 取組み 行事・企画	<p>毎月定例ミーティングを行い、利用者様の情報共有と連携に努めた。</p> <p>ヘルパー全員の質を高めるため、毎月研修を行った。</p>	
項 目		取 組 み 結 果	
③	職員の 資質向上	1 研修・勉強会の状況	事業所内研修 11 回実施（そのうち災害と感染対策 2 回）
		2 人材育成・資格取得	毎月研修実施（口腔ケア・認知症ケア・病気と既往症・脱水と熱中症対策・自立支援・プライバシー保護・緊急時対応・薬の知識 高齢者の冬の健康管理・災害時の対応・感染症対策）
④	業務の円滑化 環境整備	1 会議・各種委員会	定例ミーティング実施。
		2 業務改善の取組み	職員の専門性を第一に会議でのケース検討を繰り返し実施。
⑤	運営管理 危機管理	1 保健衛生管理	腸内細菌検査 年 2 回 4 月・10 月実施 健康診断 年 1 回 9 月実施
		2 防災管理など	令和 6 年度は研修と訓練（空き缶で炊飯・耐熱アイラップでのパン作り・水で作るカップヌードル）を行う。
		3 リスクマネジメント	感染症・訪問時の事故等において常に五感で察知できるよう心掛け、確認も行った。
		4 苦情対応・解決	苦情にならない様、利用者様、家族に良く傾聴を行い、ヘルパー全員で周知を行い、ケアマネにも連絡し連携をとった。
⑥	福祉活動 各種連携	1 地域への貢献・連携	地域における在宅での生活を支えるために利用者様に合わせ、地域関係機関と連携を実施。 地域ケア会議等出席し、ケースに応じて検討を行い、知らない事も勉強する事が出来た。
		2 家族・関係者の連携	利用者様の異変に素早く気づき、家族、ケアマネ、訪問看護、関連事務所と連絡をとり、連携を行った。
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	<p>特別地域加算を頂いているため、他の事業所より利用料が高いが、研修を行い、知識を身に付け、接遇にも心掛け、徐々に訪問依頼も増えてきた。が、職員の病気や事故等により、新規を受ける事が難しく、せっかくの依頼を断っている現状です。</p> <p>ヘルパーの増員に努め、在宅での生活を必要としている方の力になるヘルパーセンターにしていきたい。</p>	

令和6年度 事業報告書

事業部門 基本方針		グループホーム・グループホームデイ	
①	事業概況 総括	<p>入所、通所者共に感染対策を継続しながら制限のある中で行事を行った。施設内での行事を中心に計画し、昼食・おやつ作り行事を利用者が参加出来る様に工夫して行った。外出は、感染症等の状況をみながら、個別外出でご本人の希望を叶えられる様に工夫した。計画停電作業を利用して、日帰り温泉旅行を行い、災害時対応の備えとなるようにした。また、職員が同行しての受診、レントゲン撮影等の健康管理も行った。コロナ感染者があり、今後も感染症等の対策を継続していく必要がある。</p> <p>ワイズマン活用、タブレットの活用が定着しており、記録業務のデータ化でペーパーレス化に繋がった。今後の記録業務にも写真撮影でのデータ化や、外部との連携を図りたい。</p> <p>【グループホームデイサービス】</p> <p>定期的な利用者の確保、安定が困難であった。要因として職員の人員確保が困難であり、稼働出来ない事もあった。また、コロナやインフルエンザ等の感染症対策によって、デイサービスを休止する日があり、利用率の低下に繋がってしまった。</p>	
②	サービス向上 取組み 行事・企画	<p>レクリエーション活動の工夫（工作・書道等）、PC利用での体操やクイズ等の頭の体操を行った。筋力低下の予防の為、歩行や踏み台昇降運動等を行った。新しい行事を計画した。常に掃除や洗濯物たたみ、食事の盛り付け、片付けを利用者中心に行って頂き、メリハリのある、やりがいのある仕事となるように工夫をした。</p> <p>GH新聞の発行 1回/月 ご家族に活動の様子を見て頂けるよう工夫する。家族会代用行事を、家族との交流の機会として電話、リモートでの通話で交流を図った。</p>	
項目		取組み結果	
③	職員の 資質向上	1 研修・勉強会の状況	月に一回の研修参加（実技や講習会、事例検討会に参加した。）
		2 人材育成・資格取得	介護福祉士 1名取得。各自、目標成果シートの活用をした。
④	業務の円滑化 環境整備	1 会議・各種委員会	月に一回のGH会議・奇数月に運営推進会議の開催。GH部会に参加（年5回）
		2 業務改善の取組み	書類等を見直し、申し送り等がスムーズになるように工夫した。会議やカンファレンス日等に問題点抽出、検討を行った。
⑤	運営管理 危機管理	1 保健衛生管理	出勤時の検温実施。検便の実施（8月）ワクチン接種（10月）。
		2 防災管理など	施設の断水、停電作業時を利用して、施設外避難を行った。また、職員は各自非常食の準備等の整備を行った。
		3 リスクマネジメント	事故報告（年間6件）・ヒヤリハット報告（年間55件）を、GH会議や運営推進会議で取り上げ、再発防止に向けて検討・周知した。また、徘徊者や不意の行動把握等の対策を検討した。（センサーコールの使用等）
		4 苦情対応・解決	苦情等はないが、日々の言葉かけ等で不快な思いをする事もあり得るので常に意識出来る様に注意する。また、満足度調査の際に寄せられたご意見を運営に活かせる様に工夫した。
⑥	福祉活動 各種連携	1 地域への貢献・連携	「地域のサポーター」の方との交流の機会を作り、作品作成に関わった。「つるし飾り」見学に参加した。阿木高生と作品キット、作成に関わる機会を通して交流を図った。
		2 家族・関係者の連携	常にご家族への報告、相談を行った。また、主治医や看護師に連絡、相談、指示を受けて連携を図った。市役所への相談、連携を随時行った。
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	<p>☆成果☆職員の資格取得あり。（介護福祉士 1名）・初任者の受入れ、外国人材の受入れがあり、職員間で教育方法を検討した。引き続き検討しながら対応していく必要がある。</p> <p>☆IT化により、写真等での情報共有が出来るようになって来た。</p> <p>●課題●GHDSの利用者の安定的な確保。新規入所者の選定がスムーズに行かないことがある。初任者の資格取得が必要となる。今後の課題とする。</p> <p>○今後の方向性○訪看事業所との連携で医療ニーズに対して対応する事が出来るようになる為、工夫していきたい。職員の資質向上を引き続き目指したい（資格取得・研修参加等。）</p>	

令和6年度 事業報告書

事業部門 基本方針		デイサービスセンター大井シクラメン	
①	事業概況 総括	<p>令和6年度は、主要サービスであった機能訓練加算を廃止したことにより、大きな影響があり、新規利用の問い合わせが減少した。</p> <p>しかし、利用者やご家族の要望に応じて、延長利用・短時間利用・送迎時間の調整など、柔軟な対応を行うことで、新たな利用につなげることができた。</p> <p>【サテライトデイサービス 飯地シクラメン】</p> <p>令和5年度末時点では利用者数が4名と少なく、事業継続が危ぶまれたが、令和6年5月に新たに2名が加わり、継続可能な体制となった。</p> <p>しかしその後、利用中止や休止者が相次いだため、11月より営業日を週2日から週1日に縮小（休止曜日の利用者については、大井シクラメンで対応）。</p> <p>年度末時点での利用者数は3名となっており、今後の事業継続については、地域との協議を通じて継続の可否を検討していく予定である。</p>	
②	サービス向上 取組み 行事・企画	<p>レクリエーション支援の一環として、5月にカラオケ機器「FREE DAM」（月額利用料：35,000円）を導入。これにより、プログラムの充実と職員の業務負担軽減を図り、現在も継続的に活用している。</p> <p>大井：年3回発行（ご家族および関係機関への活動周知） 飯地：年1回発行（地域全世帯への集客および活動周知） 行事開催：10月5日、5年ぶりに「秋まつり」を開催（当初は8月31日予定だったが、雨天により延期）</p>	
項目		取組み結果	
③	職員の 資質向上	1	研修・勉強会の状況 義務化されたBCP策定、感染症対策、虐待防止対策、入浴介助に関する各種研修を実施し、職員の知識向上と対応力の強化を図った。
		2	人材育成・資格取得 業務目標成果シートを活用した人材育成を実施。 キャリアアップ奨励基金を活用し、1名の職員が外部研修に参加。 本年度の資格取得者はなし。
④	業務の円滑化 環境整備	1	会議・各種委員会 義務化されたBCP策定・感染症対策・虐待防止対策に関する会議を開催。
		2	業務改善の取組み 介護ソフトを「希望」から「ワイズマン」へ移行し、請求業務の効率化を実現した。今後はiPad等のICT機器を活用し、処遇記録や業務日誌のデジタル化を段階的に進めていく予定である。
⑤	運営管理 危機管理	1	保健衛生管理 新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行した後も、施設内では引き続き感染対策を実施し、拡大防止に努めた。
		2	防災管理など 9月2日付で防火管理者を変更（人事異動による） 消防用設備の自主点検を3か月に1回実施。
		3	リスクマネジメント 介護事故：14件 （転倒6件、外傷2件、誤薬1件、その他5件） ヒヤリハット：30件
		4	苦情対応・解決 苦情：2件 苦情内容：送迎時の運転に関する外部からの指摘 秋まつり開催に関する利用者からの意見
⑥	福祉活動 各種連携	1	地域への貢献・連携 恵那市社会福祉法人等連絡会に参加し、地域との連携を推進。 ⇒ フードバンクキャンペーンに協力（実施期間：8/1～8/30日、12/7～1/15） 地域サロン活動支援として、2/20に「中野方～串原ささゆりの湯」間の送迎支援を実施。
		2	家族・関係者の連携 利用者の状態変化や支援内容について、ご家族と積極的に連絡・情報共有を行い、担当ケアマネジャーとも随時報告・相談を実施し、連携強化に努めた。
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	<p>4月、BCP対策の一環として災害備蓄食料の整備を実施。</p> <p>業務の生産性向上を目的として介護ソフト「ワイズマン」を導入し、現在は介護請求業務に活用中。</p> <p>⇒ 今後の課題として、処遇記録や業務日誌のデジタル化を推進するため、iPadやパソコンの活用を進める。</p>	

令和6年度 事業報告書

事業部門		ショートステイ大井シクラメン	
基本方針			
①	事業概況 総括	<p>利用中の様子をできる限り詳しくご家族にお伝えするとともに、利用者の身体状況に応じた適切な支援を行うことで、信頼関係の構築とサービスの質の向上に努めている。加えて、急な利用希望にも可能な限り柔軟に対応し、家族の介護負担軽減にも取り組んでいる。</p> <p>11月から1月にかけて、定期利用していた約10名の利用者が、体調不良や介護老人保健施設への入所等により相次いでキャンセルとなり、該当期間の利用率が大幅に低下した。この状況を受けて、担当ケアマネジャーに対し空き状況を積極的に周知し、追加利用や新規利用の促進に努めた。その結果、3月末時点では、4月以降の利用予約はほぼ満枠となった。12月末より、ミャンマー出身の特定技能外国人2名が就労を開始した。両名は業務に対して真摯に取り組んでおり、習得も早く、着実に実力を伸ばしている。利用者および職員からの信頼も厚く、今後は夜勤体制の強化にも寄与することが期待される。</p>	
②	サービス向上 取組み 行事・企画	<p>令和5年度末に岐阜県の補助金を活用してインカムを導入し、令和6年度からの本格活用を見据えて職員の装着を義務付け、職員間の連携強化を図った。しかし、実際には業務中の使用頻度が低く、装着の手間も負担となったため、約半年の試行期間を経て「活用の有効性に乏しい」と判断するに至った。</p> <p>広報誌「大井」：年3回発行し、ご家族および関係機関への活動状況を周知。 行事開催：10月5日に「秋まつり」を5年ぶりに開催。（当初は8月31日に予定していたが、雨天のため延期）</p>	
項 目		取 組 み 結 果	
③	職員の 資質向上	1	研修・勉強会の状況 義務化されたBCP策定、感染症対策、虐待防止対策、入浴介助に関する各種研修を実施し、職員の知識向上と対応力の強化を図った。
		2	人材育成・資格取得 業務目標成果シートを活用した人材育成を実施。 キャリアアップ奨励基金を活用し、1名の職員が外部研修に参加。 本年度の資格取得者はなし。
④	業務の円滑化 環境整備	1	会議・各種委員会 義務化されたBCP策定・感染症対策・虐待防止対策に関する会議を開催。
		2	業務改善の取組み 介護ソフトを「希望」から「ワイズマン」へ移行し、請求業務の効率化を実現した。今後はiPad等のICT機器を活用し、処遇記録や業務日誌のデジタル化を段階的に進めていく予定である。
⑤	運営管理 危機管理	1	保健衛生管理 新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行した後も、施設内では引き続き感染対策を実施し、拡大防止に努めた。
		2	防災管理など 9月2日付で防火管理者を変更（人事異動による） 消防用設備の自主点検を3か月に1回実施。
		3	リスクマネジメント 介護事故：13件（うち重大事故〔転倒による骨折〕1件） 内訳：転倒5件、外傷6件、誤薬2件 ヒヤリハット：33件
		4	苦情対応・解決 苦情件数：2件 内容：介護内容に関する不満、および職員の言葉遣いに関する指摘。（いずれも速やかに事実確認を行い、解決を図った。）
⑥	福祉活動 各種連携	1	地域への貢献・連携 患那市社会福祉法人等連絡会に参加し、地域との連携を推進。 ⇒ フードバンクキャンペーンに協力（実施期間：8/1～8/30日、12/7～1/15） 地域サロン活動支援として、2/20に「中野方～串原ささゆりの湯」間の送迎支援を実施。
		2	家族・関係者の連携 利用者の状態変化や支援内容について、ご家族と積極的に連絡・情報共有を行い、担当ケアマネジャーとも随時報告・相談を実施し、連携強化に努めた。
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	<p>4月、BCP対策の一環として災害備蓄食料の整備を実施。</p> <p>業務の生産性向上を目的として介護ソフト「ワイズマン」を導入し、現在は介護請求業務に活用中。 ⇒ 今後の課題として、処遇記録や業務日誌のデジタル化を推進するため、iPadやパソコンの活用を進める。</p>	

令和6年度 事業報告書

事業部門		中津川市シクラメン地域包括支援センター	
基本方針			
①	事業概況 総括	<p>地域包括ケアシステムの深化・推進、地域共生社会実現に向けた中核機関として、体制強化と連携体制づくりを進めた。地域包括支援センターの多岐に渡る業務はそこに全て繋がっていることを地域で実感しながら行うことができた。</p> <p>介護予防ケアマネジメント業務では、令和7年4月からの事業所開設に向け、指定を受け準備を進めることができた。</p> <p>介護予防教室、認知症施策では専門職だけでなく、地域の方との連携、社会資源の活用などを意識し取り組むことができた。</p> <p>地域ケア会議では、多職種連携を図り課題解決に資する内容のものから介護予防のための会議など幅広く計画通り進めることができた。</p> <p>ネットワーク・地域づくりでは、阿木地域包括支援ネットワーク会議（通称 ごちゃまぜ会議）において地域連携、医療連携により事業を具体的に進めることができた。また年度末に全体会議の開催、Aコープに関するアンケートの実施計画までもっていくことができた。</p> <p>そして何より10月より職員体制が0.5人増員され、上記の事業全般に積極的に取り組むことができた。</p>	
②	サービス向上 取組み 行事・企画	<p>10月からの1.5人の職員体制で、多岐に渡る事業に対しより充実した体制で取り組むことができた。</p> <p>◆広報＝(a)事業所機関紙発行：年4回発行（阿木全戸、関係機関へ活動の周知）(b)ホームページでの活動告知、報告 (c)地域情報活用 (d)インスタでの活動周知(新規)</p> <p>◆事業＝(a)介護予防ケアマネジメント業務 ①指定介護予防支援事業所開設への準備②介護予防教室：43回 ③事業対象者プラン：8件 ④阿木いきいきリハビリ体操指導士定例会：6回、養成研修：1回 (b)総合相談支援業務①阿木地域包括支援ネットワーク会議 事務局会議：3回、分科会：5回、全体会議：1回 ②相談協力員懇話会：1回 (c)認知症高齢者、家族支援業務①介護者の集い：4回 ②あぎオレンジカフェ：3回 ③認知症サポーター養成講座：3回 (d)地域ケア会議：4回 (e)配食サービスアセスメント：10件</p>	
項目		取組み結果	
③	職員の 資質向上	1	研修・勉強会の状況 業務に関わる研修、会議(集合、オンライン)での学習。
		2	人材育成・資格取得 各種研修(集合、オンライン)での学習。
④	業務の円滑化 環境整備	1	会議・各種委員会 法人内(BCP委員会、衛生委員会、相談員連携会議等)外(支援センター部会、包括連絡会、主任CM連絡会等)への出席、学習。
		2	業務改善の取組み 上記委員会、会議での改善、向上にむけた学習、取組みの実施。
⑤	運営管理 危機管理	1	保健衛生管理 感染予防の実施及び事業参加者への感染予防への普及啓発。
		2	防災管理など BCP委員会への出席、講演会での学習、地域での訓練参加等。
		3	リスクマネジメント 部署代表者会議等及び市高齢支援課への報告、協議
		4	苦情対応・解決 包括センター長、居宅管理者と必要に応じた協議、市高齢支援課への相談等。
⑥	福祉活動 各種連携	1	地域への貢献・連携 阿木地域包括支援ネットワーク会議の各種取組み、NPO法人阿木ふるさと福祉村の事業への協力等。
		2	家族・関係者の連携 家族会の開催、地域包括支援センターの各種事業を通じた多職種連携の実施。
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	<p>令和6年度の成果の1つとして、令和7年度から新規業務として始める指定介護予防支援事業所への体制準備が挙げられる。7年度以降、要支援者、事業対象者の総合事業への関わりをこれまで以上に持ち、一般介護予防事業から総合事業へなど一貫した介護予防への取り組みを進めていきたい。さらに職員体制が充実したことで、事業所の健全な運営やその他業務においてもその内容を深めていきたい。</p>	

令和6年度 事業報告書

事業部門 基本方針		居宅介護支援事業所シクラメン	
①	事業概況 総括	ご利用者が住み慣れた地域で、その人らしく、安心して生活を送ることが出来るよう介護支援専門員として公正、中立の立場で相談支援活動に努めました。県居協の研修や他法人との合同研修会、中津川市・恵那市ケアマネ部会等での研修を通し、自己研鑽に励み、資質の向上に努めました。生活支援コーディネーター、阿木診療所や他の医療機関との連携を密に行い、きめ細かなサービスが提供できるようにし、介護保険サービスだけでなく、医療サービスやインフォーマルサービスを利用して、ご利用者が自宅での生活を継続できるよう支援しています。朝礼や週1回の居宅会議で職員間の情報交換や課題の共有ができ、よりスムーズに相談できるようにしています。	
②	サービス向上 取組み 行事・企画	<p>県居協、中津川市・恵那市ケアマネ部会等が主催する研修会に複数人が参加し、居宅会議で研修の伝達をして、全員の資質向上を図っています。</p> <p>阿木診療所や生活支援コーディネーターとの連携会議、阿木地区内の行事への参加を通して、阿木地域内での顔の見える関係作りをしています。</p> <p>中津川市 隔月ケアマネ部会・主任ケアマネ連絡会、7・12月虐待防止研修会、11月地域保健医療福祉講演会、3月介護給付費適正化研修会</p> <p>恵那市 月1回ケアマネ連絡会、</p> <p>県居協 4月制度改正研修会、5月春季研修会、7月質の向上研修、11月秋季研修会</p> <p>法人 4月能登半島地震被災地域へ派遣、11月全国老協大会</p> <p>地域 7・10・1月地域ケア個別会議事例提供、6月生活支援コーディネーター連携会議</p> <p>5・9・2月阿木診療所とのカンファレンス、7月生活支援体制整備講演会、</p> <p>4・3月阿木地域ごちゃまぜ会議、6月暮らしの保健室・7月包括出前講座講師</p> <p>防災 5月阿木地区要配慮者マップ作り、8月阿木地区避難所開設訓練、</p> <p>阿木中学校命の守り方を考える会（DIG訓練）、11月訪看ネットワーク研修会</p> <p>その他 8月法人間合同研修、7・2月恵那保健所研修会、9月県介護給付費適正化研修会</p>	
項目		取組み結果	
③	職員の 資質向上	1 研修・勉強会の状況	上記研修会、勉強会、会議、講演会等に参加し、参加後居宅会議で伝達を行い、ケアマネ一人一人の資質の向上に努めています。
		2 人材育成・資格取得	介護支援専門員法廷研修受講 主任更新研修 1名
④	業務の円滑化 環境整備	1 会議・各種委員会	週1回居宅会議において、情報共有、会議や研修の伝達を行う他、毎朝の朝礼にて情報共有を行っています。BCP委員会、虐待防止委員会等法人内の会議に参加しています。
		2 業務改善の取組み	居宅会議等で情報共有し、ご利用者への対応をスムーズに行う。業務の効率化を図るために業務の手順マニュアルを作成。FAX送信のペーパーレス化を実施。
⑤	運営管理 危機管理	1 保健衛生管理	毎朝の検温継続
		2 防災管理など	阿木地区要援護者マップ作りに参加、ハザードマップを確認し、危険地区の独居・高齢世帯の自宅を全員で確認。避難所開設訓練や中学校でのDIG訓練等に参加。
		3 リスクマネジメント	書面で確認し、伝達ミスをなくす、入力事項等二重チェックを行う、二人で対応する等しています。
		4 苦情対応・解決	苦情があった場合は管理者がご自宅を訪問し、話を伺い、意向を確認しています。必要に応じて担当者の変更をします。
⑥	福祉活動 各種連携	1 地域への貢献・連携	要援護者マップ作り、阿木地域包括支援ネットワーク会議等に参加。阿木診療所や生活支援コーディネーターと連携を図っています。地域の出前講座に講師として参加しています。
		2 家族・関係者の連携	月1回のモニタリング訪問時にご家族等とも面談しています。各サービス事業所との連携はその都度行っています。
⑦	今年度の成果 来年度の課題 今後の方向性	<p>災害対策としてハザードマップの確認や危険区域のご利用者宅の確認等行っています。</p> <p>地域との顔の見える関係作りとして、地域の防災訓練等行事に参加したり、出前講座に講師として参加しました。ケアマネの資質向上のため、各々積極的に研修への参加に勤めました。</p> <p>・来年度に向けて</p> <p>ケアマネの資質向上のため研修会や勉強会に積極的に参加します。</p> <p>災害対策としてできることを継続しながら、研修に参加したり、訓練等実施していきます。</p> <p>包括支援センターの事業や地域行事に参加し、顔の見える関係作りをしていきます。</p> <p>居宅の担当件数を増やすため、阿木地区以外の利用者の受け入れを今後も行っていきます。</p>	